

2019
第5回

これからの建築士賞

「建築士」は日本の都市と建築にかかわる重要な職能資格であり、設計・監理・施工・行政・教育・まちづくり・発注者など幅広い業務に携わりながら、未来につながる社会の実現のため努力してきました。近年では防災・環境・高齢化と人口減少・歴史文化の喪失など多くの課題の中で、その専門的な知見を生かしながら、魅力的な社会・街並み・建築空間の実現を目指して活動しています。

なかでも最近は他の建築関係の会とも連携し、それぞれの地域をベースにした協働も盛んになってきており、これらの新たな活動が大きな波となって地域社会の未来に力となる事も期待されています。多様な分野における建築士ならではの新しい動きに光を当て、顕彰し、支援するとともに広く世の中に伝えようとするのが「これからの建築士賞」の目的です。

募集要項

1. 賞の対象

都市と建築に関わる近年の活動や業績で、設計・監理・施工・行政・教育・まちづくり・発注など建築士としての多様な立場を通じて行った未来につながる社会貢献に対して、その活動・業績を担った建築士もしくはそのグループを顕彰する。

未来につながる社会貢献とは、たとえば、美しい景観の形成、安全で魅力的なまちづくりや空間の提案、自然環境や歴史的環境の保全、地球温暖化・人口減少・高齢化社会に対する提案、弱者に対する対策、文化・にぎわい・コミュニティの創出、建築に関する啓蒙・普及など多様であるが、さらに、これからの建築士の仕事を開拓するような、従来の建築士の枠を拡げる活動の応募も大いに期待したい。

2. 名称及び受賞数

これからの建築士賞 10点程度（但し、応募点数による）

3. 応募資格

原則として建築士もしくは建築士を含むグループで、活動のベースが東京にあること。過去の応募者の再応募は可とします。審査員が直接係った案件は応募対象から除外される。また審査員が所属する事務所、グループが審査対象となる場合は、その案件に係る一切の審査から外れるものとする。

4. 応募方法

別紙候補推薦書に記入の上、必要に応じて参考資料をA4用紙3枚以内にまとめて、事務局まで提出のこと。関係資料は返却されないものとする。郵送、メールによるデータの送付も可能。候補推薦書は東京建築士会ホームページからダウンロード可能。自薦、他薦を問わない。

5. 審査員

小野田 泰明（東北大学大学院工学研究科教授）
馬場 正尊（オープン・エー／東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科教授）
藤江 和子（藤江和子アトリエ）
藤村 龍至（東京藝術大学美術学部建築科准教授／RFA）

6. 審査・顕彰

3月上旬 公告
4月26日 応募書類提出締切
5月中旬 審査会
6月5日 東京建築士会総会の席上で顕彰

7. 発表・その他

受賞者の活動パネルを上記総会時に展示（パネルはA2版、受賞者が作成するが、場合によっては推薦者が協力する）
受賞者及びその活動については本会会誌、ホームページに講評とともに掲載するほか、各メディアに公表予定。

8. 応募締切

2019年4月26日（金）必着
事務局窓口へ直接お申込みいただく場合は、4月26日（金）17:00迄とする。

9. 応募書類提出先・お問合せ先

一般社団法人 東京建築士会 これからの建築士賞係
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11-1 富沢町111ビル5階
TEL:03-3527-3100 FAX:03-3527-3101
E-Mail: event02@tokyokenchikushikai.or.jp
<https://www.tokyokenchikushikai.or.jp/>

審査結果

入賞5点（応募点数18点）

1	業績名	スマートフォンアプリによる建築検定の展開	4	業績名	建築の「成長」をデザインする 「経営」と「働き方」の課題を解決し、建築業界の成長に貢献する コンサルティング会社、フリーランス
	候補者名	一般社団法人 東京構造設計事務所協会 建築検定委員会		候補者名	吉川 葉月、石井 絵奈梨、皆川 真輝、齊藤 あずさ、春口 混平、大原 明恵、納見 健悟 ＋株式会社フリーランス
2	業績名	海・まち・いとなみの復興デザイン ー気仙沼市内湾地区における まちづくり支援と防潮堤一体型建築の計画・設計ー	5	業績名	森美術館展示のための待庵原寸再現模型制作を通じた ものづくり教育と建築文化の普及啓発
	候補者名	阿部 俊彦、津久井 誠人、岡田 昭人、時岡 壮太		候補者名	待庵プロジェクト教育チーム 岡田 公彦、大竹 由夏、三原 斉、町田 清之、市川 茂樹、西 直美、松本 宏行、武雄 靖、 小林 靖史、飯島 勇、榎本 栄治、金澤 萌、鈴木 光、永島 義教
3	業績名	建築士の職能を拡げる建築士自身からの政策提言			
	候補者名	公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 常任幹事 相坂 研介			

関連情報：話題の書籍

これからの建築士 ー職能を拡げる 17 の取り組み

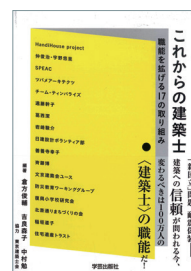
建築への信頼が問われる今、変わるべきは 100 万人の＜建築士＞の職能だ！

第1回これからの建築士賞審査結果を紹介した『これからの建築士ー職能を拡げる 17 の取り組み』（編著：倉方俊輔、吉良森子、中村勉 協力：東京建築士会）が出版されました。この賞の内容が詳しく掲載されています。

全国の書店・ネット書店で販売

本体価格 2,300 円＋税
発行：学芸出版社

<http://www.gakugei-pub.jp/>



[第5回 これからの建築士賞]

総評文

小野田 泰明

人口減やストックの充実など建築士を取り巻く環境が厳しいことは言うまでもない。そういった中で、建築士の職能団体が、現代の社会が求める専門家を探ろうと作り出した本賞の意義は決して小さくない。今年もしっかりとした議論に基づいて、意義のある活動がいくつか選ばれている。個人的には、Birdプロジェクト、海・まち・いとなみの復興デザイン、建築士の職能を拡げる政策提言、などを強く推した。



Birdプロジェクトは、ストック社会と言ってもメリハリを見極める目利きと丁寧な執行する保全者がいて初めてそうなることを建築士自らが実践されたことに好感が持てた。従来は、歴史的建造物以外は、十把一絡げにされてきたが、このように、場所の可能性を顕在化させ

た良質な建築を起点に、設計後もその創造的展開に力を注ぐ活動は、ストック社会の基本を耕すものとして好感が持てた。しかしながら、今後の発展を見てから賞をという、この案件を良く知る他委員の声に、それ以上、強い声は上げなかった。より大きくなった姿が楽しみだ。

海・まち・いとなみは、通常は土木の専管事項となって、生活に直結するにも関わらず建築の人間が関与しにくい災害ハザードの設計から、建築設計、まちづくり、さらには業務運営まで統合して作り上げた好事例だ。私自身も復興には色々な所で関わっているが、これはなかなかできるものではない。もちろん、商業主を中心とする地元の方々ガリスクを取ってもやり切るのだと、強い意志を示されたことや、横並び意識の強い公共事業で要求水準の設定やまちづくりに柔軟に対応された行政の力が基礎にはなっているのだが、技術力と粘り強さで、それらをまとめた力量は称賛に値する。主宰者には、これからもこうした意義ある活動を拾い上げ、発信し続けていって頂きたい。

馬場 正尊

今年の作品の傾向として特に気になったポイントは2つ。1つは建築士が空間の運営にまで携わろうとしていること。もう1つは建築の仕事の仕方を変えるプラットフォームを構築しようとしていること。どちらも次の時代の建築士のあり方を予感させるものだ。

企画や設計をすることにとどまらず、その場所に居続け、もしくは関わり続け空間の運営にまでコミットする新たな建築士の役割が複数提示されている。自分がつくった空間に責任を持ち続けることができる上、それ自体が新たな収入源にもなっているわけだから、今後もこのような建築士が増えていくだろう。

またコミュニケーションテクノロジーやアプリなどを使い、建築士の仕事の仕方自体を変革していこうという動きもここでは顕在化している。遠隔の複数の拠点をネットワークで結びプロジェクトを進める若手のチームが出現したり、複雑化する建築士の仕事の一部を合理的にアウトソーシングできるシステムを整備しようとしていたり。ブラックが当然という空気の業界の中で、それを解決する洗練された方法が模索されているのも伝わってくる。

この2年間、審査員をさせていただき感じた事は、技術者という印象が強かった建築士が、例えば社会の関係性の再構築など、ファシリテーター的な役割を担っている姿を数多く見かけた。おそらく社会がそれを求め、私たちが培ってきた能力はそれにフィットしているということでもある。変化に適応できるタフな建築士の姿をこれからも追求してほしいと思う。





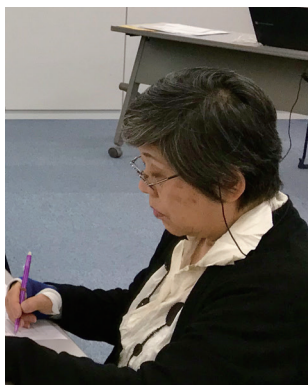
藤江 和子

応募された18作品は、多様な職能に関わる建築士だからこそ幅広い分野にまたがる内容であり、多彩な活動に向き合う時間と労力そして熱意に、どれも敬服の念を抱くものでした。建築リノベーションをはじめとし、家具スケールから土木のスケール、震災復興まちづ

くりの緊急性と異分野折衝という複雑で労苦を要する取組み、社会的啓蒙、ものづくり教育活動、事務所経営コンサルや新しいワークスタイルの実践など、大変充実したものでした。これほどに幅広い応募を促すきっかけが審査員の顔ぶれに寄るところ

ならば大変喜ばしいことです。家具がテーマの2作品は、その活動趣旨や目的性、運用のシステム、コスト、汎用性など、身近で具体的であるがゆえに説明不足か説得力に欠け、賞の対象にはできませんでした。しかしながら小さなモチーフが充実し社会に拡張浸透することで、環境が豊かになることは疑う余地はなく見過ごせない活動です。またリノベーション作品では、全国で様々な事例がある中、建築士ならではの特筆できる魅力に欠けました。しかし深刻さを増す空き家問題を含め、建築士が活躍すべき重要なテーマであることに違いはありません。

これからの建築士賞に相応しい5作品が選出できたことは素晴らしいことでした。



藤村 龍至

建築士としてのユニークな活動、領域を超えた活動、建築士制度そのものへの提案が並ぶなか、昨今の社会の風潮を反映してか建築士の働き方への提案、実践が目立った。受賞を果たした「建築の『成長』をデザインする」納見氏の業績のほか、「『リモートワーク』を中心とした設計事務所」を応募した柿木佑介+廣岡周平氏の業績も注目に値すると感じた。働き方を多拠点によるリモートワークとした

上で移動時間をなくすという試みそのものは珍しくなく既に多数の事例もあるだろうが、それぞれの自宅のほかに社員寮3箇所を事務所で借り上げ、同額規模の社員寮を作業場兼住まいとして支給することで働き手は家賃がかか

らず、実質的な報酬の上昇を果たすというアイディアは建築士事務所のスタートアップのあり方として興味深く、人が集まる場所としてオフィスは必要だと強弁してきたこれまでの建築士事務所経営のあり方に対して問題提起となるだろう。ブロードバンドとクラウドサービス、共有ツール、チャットツールなどを駆使して遠距離をいよいよものともしなくなったここ数年の環境整備が、ヘッドクォーターなんて要らないじゃないかという主張に説得力をもたらしたことに「これからの建築士事務所」のあり方を見る可能性を感じるが、実際にどの程度生産性が上がっているのか、報酬の実績を掲載することは難しいかも知れないが、せめて受賞歴などを応募資料に掲載していればさらに説得力を増したであろう。その意味で独自の働き方の追求において長年の実績を持ち不動産のほか学習塾や農園の経営で経営を多角化してきた類設計室岩井氏による「学びの変革～子どもたちの活力を再生」もまた、同様の文脈の中で再評価される可能性は高いだろう。



1

スマートフォンアプリによる建築検定の展開

スマートフォンアプリによる建築検定の展開

一般社団法人東京構造設計事務所協会 建築検定委員会



Let's try! あなたの建築を発見しよう

スマートフォンからはじめる建築の世界



建築検定は、建築に興味がある一般の方や、学生、子供たちを対象にした、遊びながら建築を学ぶことができるスマートフォンアプリです。
5級～2級は誰でも気軽に遊べるよう無料のアプリで、1級は問題用紙を受験者に郵送し、ネット上で解答する有料の試験になっています。
各級ごとに合格証が送られ、1級合格者にはASDO会員および協賛企業からユニークな副賞が贈られます。
今後は、問題の充実化、アプリの改良、広報活動などに力を入れ、ダウンロード数の増加を目指して、さらに活動を活性化させていきます。



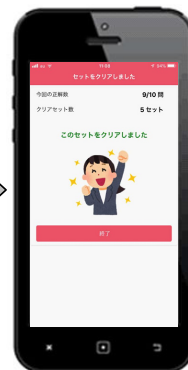
 App Store
からダウンロード


 Google Play
で手に入れよう


スタート



解答



クリア!

委員長：大沼 耕平 副委員長：片桐 徹哉

 委員：岡本 憲尚 大沼 彰裕 高原 康正 平野 二郎 川邊 裕一 渡辺 尚一 朝倉 浩樹 神田 健太郎
 赤木 隆太郎 飯田 遥 岸部 巧 森 徹也 高橋 浩司 高倉 英作 脇田 健裕 草間 綾乃

 協賛：岡本構造研究室・SAM コトブキ技研工業(株) 生和テクノス(株) (株)ロブテックスファスニングシステム アイエスケー(株) (株)E&CS
 ジャパンパイル(株) (株)T&A設計 (株)ヤマトアパレイユ 東海精機株式会社4D-WORKS (株)オムテック 伊田テクノス(株) (株)ビー・グラント
 (株)安部日鋼工業 センクシア(株) (株)高生総合設計 (株)サムシング (株)山工場 (株)創伸産業 愛知ベース工業(株) (株)リガーレ
 ジャストマテリアル(株) 日本ヒューム(株)

建築は、たとえ個人の財産であっても、離散的に存在するエネルギーや地域資源の取り出し口として社会を構築し、外形的にも景観を構成する重要な公共財である。しかし、消費社会の発展は、建築を商品化し、建築に宿っていた公共性の概念は大きく後退した。そうした問題に対して、手軽に触れることを通じて、共有知としてのあり方を新たに獲得しようと試みる本事業は、深い試みである。実際に学生にやってもらうと、歴史、意匠、計画に関する

出題にはもう一練り欲しい、問題が軽いものから計算問題まで幅があって雑多な印象を受ける、といったように課題もあるようだ。けれども、このことをもって、本事業が不十分と言うことではない。むしろ、コードの無償共有を許可し、非営利・営利に関わらず誰でも自由に使用・修正・頒布できることで発展したLinuxのように、開かれることで、より強固なものになっていく。今は、その取り掛かりなのかもしれないと思う。

小野田 泰明

建築士の職能を拡げる建築士自身からの政策提言／日本建築家協会 関東甲信越支部 常任幹事 相坂研介

■これからの建築士

縮小する都市と人口、ストック型の成熟社会において、建築士が今後も従来型の受動的スタンスであり続けるなら、職能発揮の場が減少するのやむを得ない。しかしその知見がまだ広く社会に還元できる可能性があるとするならば、その機会を拡げるのはこれからの建築士、すなわち我々自身であると考えている。ここでは公共工事における昨今の地方自治体の発注者不全という社会問題と、それに関連した発注方式の偏りによる多様性・持続可能性の問題とを踏まえ、それら二つを解決しながら将来的に建築士の職域拡大もしていける一つの可能性として、公共工事発注者支援の実例を紹介したい。

多様で公益的な公共建築生産の持続可能性のため、人手や経験の不足に悩む地方自治体の現状を知った上で、それを補う経験と中立性をもつ JIA などの公的な組織を活用し、提案型かつ段階的に参加者の増やせる発注方式を広めることなどによって、これからの建築士の活躍の場を自分たちで拡げていきたい。

■1 現況の把握（発注者不全と発注方式の偏り）

平成 8 年に 19 万人以上いた地方自治体の建築技術職員は、現在 13 万人程度に激減。自治体別に数えると、建築技術職員 5 人未満の市区町村が 72%、うち 40% は 0 人という状況。自治体職員へのアンケートによると、彼らも建築行政への不安を予算以外にも感じており、それが技術者不足・知識・経験不足によるものだと自覚している。また設計業務の発注形式は、件数ベースではプロポーザルが僅か 23%、それ以外は価格競争（入札）がほとんどであるが、“プロポーザルを採用したかったが諦めた”自治体も数多く存在しており、その理由（図 1）を見れば、「時間」以外に挙げられた「手間」「人員」「審査体制」「実施経験」は、外部からすぐに補えるものばかりである。まさに我々建築士は、自治体に不足している“技術者”であるし、発注に際して諦めた部分を補うことで、コンペやプロポーザルなど、入札以外の選定方式の比率を増やせるはずである。

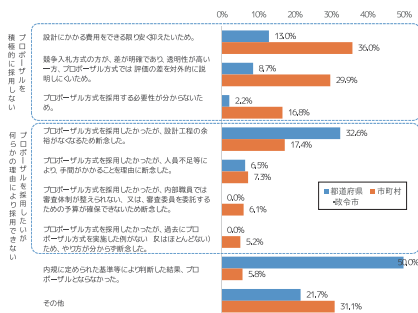


図 1：プロポーザルを採用しなかった理由

(「公共建築における発注関係事務に係る支援策に関する検討」フォローアップアンケート)

■2 建築士の様々な支援・参加のありかた

下図は、公共工事の設計監理や前後の関連業務に対し、様々な属性・経験をもつ建築士が、互いにそれぞれの特性を活かしながら関わることで、発注者の不安をぬぐいつつ、市民の社会資産たる公共建築の質と多様性を持続させる設計者選定方式およびそれを支える仕組みとして、筆者が掲げてきたモデルを示したものである。

図中緑の「第三者コンベンサー」とは、自治体の発注・選定・遂行業務を補佐して行える第三者的機関で、将来的には複数が互いに自浄作用を働かせることを期待しているが、手始めに現存建築団体の中では施工者を含まないため最も対外的に第三者性を標榜しやすい JIA（建築家協会）を通じて、幾つかの自治体にアプローチを図っていった。

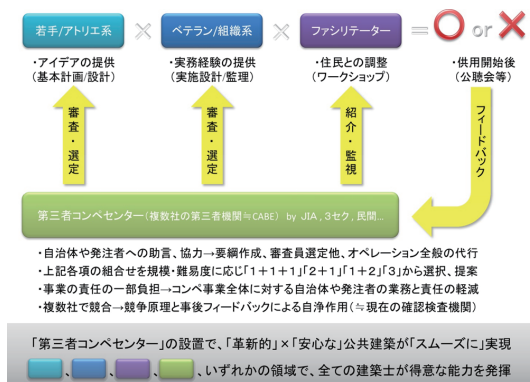


図 2：多様な発注形態を選べ、質を担保できる設計者選定方式

■3 実現した例（大井町駅南パブリックスペース設計コンペ）

実施例として、2018 年に行われた品川区発注の公衆便所を含む駅南パブリックスペースの設計コンペを紹介する。

①次代の建築家には公共建築への入口という希望を、②他の自治体には同様の公共建築コンペ開催の機運を、③発注者支援を行う職能団体（JIA）にはそのプレゼンスを内外に示すチャンスを、それぞれに与えることを目的に、小規模でも公共建築設計に参加しやすい実施コンペとして開いてくれる自治体を探していたところ、品川区から公衆便所の建替え案件をご紹介頂いた。こうしたことから 1 次審査へは 377 者が登録、227 者から提出があり、中から上位 5 点が選ばれ、二次審査は建築家大会の会場で公開。厳正な審査のもと優秀者が選ばれ、デザインレビューを挟みながら、現在は設計が進んでいる。

募集要項や審査、デザインレビューなど、手順における配慮

- ①敷居の低い参加資格： 実績不問。個人でも法人でも可。1 事務所 1 案とし組織／アトリエ、公平に機会を拡大。
- ②ゆとりあるスケジュール： 参加表明まで 1 ヶ月、提出までもう 1 ヶ月設け事務所登録も検討も十分可能に。
- ③周辺への提案も自由に： 公衆便所を除く全体は複数年事業と扱って頂き、提案次第では次年度予算も視野に。
- ④二次参加者への報酬： 準備期間やマンパワーに配慮し模型作成を求めず、かつ最低限のプレゼン費用支給。
- ⑤支援組織が併走： 要項作成やデザインレビューを JIA が行い、発注者の不安と提案者の孤立をともに防止。
- ⑥案が評価される審査員構成： 建築家を自治体職員より多数とすることで、案が評価されることを強調。



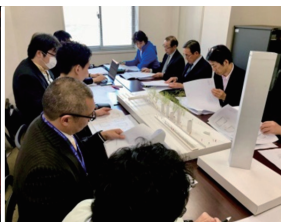
1. 敷地全景



2. 一次審査 (227 案)



3. 公開二次審査 (5 者)



4. デザインレビュー

公共発注に関する取り組みについての意見交換で、英国に行くことが多い。そういった中で、勉強になるのが王立英国建築家協会 RIBA の多面的な試みである。その活動を見ていると、「欧米では建築家の仕事が社会的に認められている。なぜ、日本は…」といった我が国で散見される論調が、一面的なことが見えてくる。社会的承認は、RIBA などが、公共の利益のために合理的かつ戦略的に貢献して拡げて来た成果の賜物だからだ。今回の建築士の職能を拡げ

る政策提言は、日本建築家協会に属する建築士が、母体となる組織と連動して、公共的プロジェクトの設計者選定を事業の創造性と選定の公明性、その両者に目配りしながら、実現した優れた試みで、これからの職能団体のありかたを示す活動として価値は大きい。今後は、これが個人に属する個別活動として片づけられるのではなく、他の関連団体とも連携して、組織的かつ継続的なプロジェクトに成長していくことを期待したい。

小野田 泰明

4

建築の「成長」をデザインする
「経営」と「働き方」の課題を解決し、建築業界の成長に貢献するコンサルティング会社、フリーランチ

建築の「成長」をデザインする

「経営」と「働き方」の課題を解決し、建築業界の成長に貢献するコンサルティング会社、フリーランチ

吉川葉月 石井絵奈梨 皆川真輝
齊藤あずさ 春口澁平 大原明恵 納見健悟
フリーランチ

なぜ経営と働き方？

フリーランチは建築士の「建築以外」の部分をサポートする会社です。建築の会社を構成する「経営者としての建築士」と「働き手としての建築士」、両面から包括的にサポートする事で、持続的に会社も働き手も成長できる環境を作りだし、建築業界の成長にも貢献できると考えています。

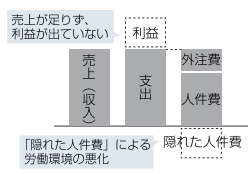
フリーランチが取り組むべき課題

「業務報酬が低い」
「長時間働いても報われない」

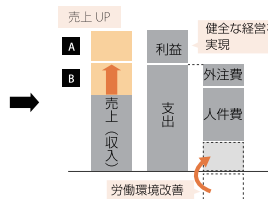
建築士の「業務報酬が低い」という課題は、会社運営に必要な売上額をみたせていない状況に起因しています。経費の大半を占める人件費が十分に確保できず、働き手も「長時間働いても報われない」状態に置かれています。

バランスシートからのアプローチ

フリーランチは、会社経営の基本である「売上-経費＝利益」に着目し、マクロ的なアプローチから経営改善をサポートすることで、会社利益の確保と、働き手の労働環境の改善を支援しています。
未払い残業、社会保険未加入、最低賃金以下の給与など「隠れた人件費」問題を、A「収入を創る」B「収入を上げる」のアプローチにより解決します。



十分な売上を確保できておらず、利益が出せないだけでなく、「隠れた人件費」が存在してしまう状況にあります。



A.Bのアプローチから売上を上げることで、「隠れた人件費」の解消による働き方の改善、利益の創出による健全な経営を実現できます。

A 収入を創る（新たな価値を創る）

- 1 マーケティング
- 4 キャリアサポート

B 収入を上げる（生産性を上げる）

- 2 会社運営・業務改善
- 3 人材紹介・採用支援

フリーランチのビジネスモデル

会社をサポート

会社経営の参謀として、集客・マーケティングや、会社運営・採用プロセスの見直しなど、建築士事務所の成長をサポートしています。
フリーランチは、設計事務所、PM/CM 会社、デベロッパー、ゼネコン、オフィス家具メーカーなど、

経営・マーケティング顧問という形で、継続的に支援しています。顧問形式を取ることで、創業期の個人事業主から上場企業まで、幅広い建築企業の課題解決をサポートするとともに、規模の異なる顧客をマッチングして、新たな協業・事業の創造も行っています。



建築

働き手をサポート

人生 100 年時代においては、建築士も持続的なキャリアアップが必要で、共働きで働き続け、育児や介護などのライフイベントでキャリアが断絶しないよう、正社員、派遣、個人事業主、独立、起業など、多様な働き方を活用しながら、持続的に働き続ける

サポートを行っています。フリーランチは、中長期的なキャリア形成のアドバイスや、現在の職場で成果を出すためのビジネスコーチ、会社とフリーランスのマッチング、転職支援、独立サポートなど、さまざまな形で建築士のキャリア形成・成長をサポートします。

1 マーケティング

建築士事務所の売上を作る

マーケティングのノウハウを活用し、集客・売上の創出をサポートします。競合との差別化ポイントをつくり、マーケティングを実践し、プッシュ型からプル型の集客・営業スタイルに転換し、売上創出をサポートします。

出版コンサルティング

書籍の出版を行うことで業界の第一人者としてのポジションを確保できます。



フリーランチによる出版コンサルティングを行った事例です。
(左：建築再構企画、右：山下 PMO)

営業資料の作成・レビュー

営業プロセスに合わせた営業資料の作成サポートをしました。小さな設計事務所には、営業資料のレビューを行っています。



大手 CM 会社アクア社の営業資料の作成を支援しました。

2 会社運営・業務改善

建築士事務所の業務を改善

プロジェクトベースの利益率改善を顧客側、自社チーム双方の改善を通じ、実現します。受注プロセスの見直し、見積・契約単価の改善、契約条件の見直し、原価管理、各種ツール活用による業務改善を通じ、生産性を向上させます。

設計+αの業務にフィーをつける

建設プロジェクトにおける課題整理は、PM/CM だけでなく、設計者がコンサルティング契約、顧問契約などを活用し、課題の整理も業務として受注できるようなプロセスとすることも可能です。フリーランチはフェーズ別の業務を定義し、発注者の要件整理の段階から報酬につなげるアドバイスをしています。

会社のカルチャーをアップデート

働き手全員の参加が難しい大きな規模の組織設計事務所では、クロド（行動指針）を作成するワークショップを行い、全社的な取り組みへと支援しました。



経営トップと若手スタッフをワークショップ形式でファシリテート

3 人材紹介・採用支援

建築士事務所の採用をデザイン

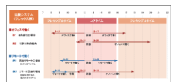
採用プロセスを改善し、人物ベースで会社の成長に貢献する採用をデザインします。採用基準をつくり、会社の規模や転職市場にマッチする適切な労働条件を定め、柔軟な働き方に変えて優秀な人材が働き続けるしくみづくりをサポートします。

PM/CM 会社の採用支援

PM/CM 会社の採用をサポート。同業の人材紹介会社のなかで、人物重視でマッチする建築技術者を紹介し、年間採用枠の 3/4 がフリーランチからの紹介者となり、貢献することができました。

各種労働制度の活用

フレックスタイム制やシフト制、リモートワークを活用し、出勤時間、曜日や働く場所を柔軟にし、労働負担を減らすサポートをしています。



4 キャリアサポート

働き方をデザイン

メディア運営やキャリア相談を通じ、建築業界の多くの働き手のキャリア形成をサポートしています。転職の支援にとどまらず、働き手のライフプランまで踏まえたキャリア形成を支援します。

キャリア相談

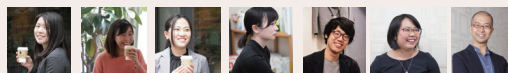
75 分間の面談を通して働き手の事情をヒアリングし、ライフプランも含めてキャリア形成の方向を検討します。



働き手の悩みを 1on1 で解決サポート

労働条件などの確認

労働条件の確認は法的義務であり入社前に労働条件を整理することで、短期の離職率が改善します。働き手が長く安心して働けるよう、労働条件のレビューを行っています。



本業績は、いわば建築士事務所の働き方に特化した経営コンサルティングである。主宰者の納見氏はいわゆる氷河期世代であり、人手不足の中で過酷な労働条件での技術習得を余儀なくされたことが想像に難くないが、そうした個人的な経験をもとに経営者、働き手双方へのコンサルティングサービスを開発し、事業に育てた点に説得力がある。設計料の値上げやダンピング問題など、設計事務所の外側に起因する社会的な課題のほかにも、設計

事務所の内側に起因する課題もまだやることはある、というメッセージは単なるひとつのサービスの範疇を超え、業界全体へ深い問いかけをするものであるが、そうした真摯な取り組みと業界全体への問題提起を含んでいるにもかかわらず、プレゼンテーションがやや単独の企業の事業の PR に留まっているように見える点が惜しいとの声があった。ブランディングデザインの専門家による自身の再ブランディングに期待したい。

藤村 龍至



1 - 完成した待庵原寸模型制作の外観



2 - 大学実習場内での木工班による柱仕口加工



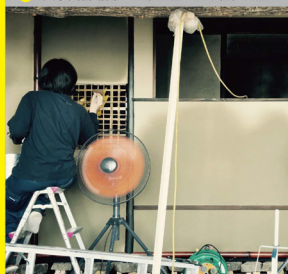
3 - 金物班による和釘の鍛金加工



4 - 展示物として軽量化のため東石、差石の切断



5 - 木仮組の様子 美術館にて本組のため解体



6 - 美術館展示室内での左官仕上げ



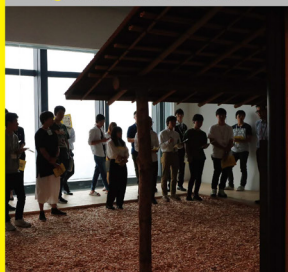
7 - 予め加工した竹材を展示室にて藁で編む



8 - パネル化した土間底の取付け



9 - 完成した室内の様子 土壁の上に腰紙貼り



10 - 美術館での見学の様子



プロジェクトメンバー
岡田公彦 / 大竹治雄 / 三原孝 / 町田清之
市川政樹 / 西園美 / 松本安行 / 武蔵崎
小林晴隆 / 飯島典 / 橋本和治 / 金澤明
鈴木元 / 永島義典

活動の経緯

国宝《待庵》は、現存する日本最古の茶室で、千利休作と伝えられており、現代まで国内外の建築に大きな影響を与えた。待庵プロジェクト教育チームは、2018年4月25日から9月17日まで、森美術館（東京・六本木）で開催された「建築の日本展：その建伝子のもたらすもの」に展示された、国宝《待庵》の原寸再現模型制作、および、制作に関する学生指導を行った。このように、国宝の建築物を原寸で再現することは希であり、また、その制作を学生に取り組ませることは極めて先進的、かつユニークな教育である。

再現にあたり、ものづくり大学の教職員および職人でもある非常勤講師らが、学生40名に対し、伝統工法から3Dプリンターの使用方法まで指導した。まず、実測図をふまえて図面を制作した。さらに、会場での展示替期間が短いため、学内で木・竹材及び石材加工、建具や和釘及び鬼瓦の制作、塗敷、土壁の施工方法の検証を行った。仮組後搬入のため一度分解し、その後展示室内で再び建て方を行い、土壁を塗るという工程で制作した。また、美術館では、原寸模型内に入り見学できるようにした。

また、ものづくり大学では、2010年より、世界的名作と称される住宅や工業製品などを原寸で忠実に再現し本物のものづくりを手触りで体感する「世界を変えたモノに学ぶ・原寸プロジェクト」という教育プログラムに生きた教材の制作を手がけており、本業績もその一貫である。

本業績は、待庵の原寸再現模型制作を通じてものづくり教育と建築文化の普及啓発に努めたことが評価に値するが、それより以前から同大学では原寸でのものづくりを通じて建築の設計と施工の技術を総合的に習得する教育を継続的に展開しており、加えて2010年から世界的名作と称される住宅や工業製品などを原寸で忠実に再現する教育プログラム「世界を変えたモノに学ぶ・原寸プロジェクト」も展開することで、深いアクティ

ブ・ラーニング、特にチームワークや身体的な関わり、施工技術への理解など、現代の建築教育において課題とされているテーマに対してひとつの解決策を提示している点が特筆に値する。同大学におけるこうした傑出したものづくり教育の成果、特に進路や進路先での効果、あるいは学生の学習意欲向上への効果や課題についても聴いてみたい。

藤村 龍至